

「研究大学強化促進事業」ロジックツリー〔記入要領〕

本ロジックツリーは、各機関が中間評価を踏まえ再構築した「研究力強化構想」(将来構想報告書)について図式化し、構想実現に至るまでの論理的な因果関係を明示することを目的として作成するものである。

よって、この度の通知「今後の研究大学強化促進事業の実施方針について」により、新たな指標の設定や将来構想報告書の改訂を求めるものではない。ただし、将来構想報告書において設定した指標等の変更を禁止するものではない。

今後は、本ロジックツリーを設計上の欠陥や問題点の発見に役立てるものとし、各機関内において利活用や横展開を図り必要に応じ見直し、毎年度実施するフォローアップを通じて確認することとする。

◆「将来構想」欄について

1. 機関としてのビジョン実現に向けた、本事業における今後5年間の構想(研究力強化方針・戦略など)について記載すること。
2. 構想(研究力強化の方針・戦略など)全体としての評価指標を設定している場合には、指標を記載(詳細については、「◆「事業までのアウトカム(2021-2022)」欄について」を参照)すること。なお、指標を記載する際には、指標番号として「指標Ⅰ」、「指標Ⅱ」・・・とローマ数字を付すこと。

◆「事業終了までのアウトカム(2021年度-2022年度)」欄について

1. 構想(研究力強化の方針・戦略など)を実現するために、事業終了まで(2021年度~2022年度)に達成すべき定量的又は定性的成果目標及び具体的な評価指標(成果目標に対して1つ以上)を記載すること。なお、指標を記載する際には、指標番号として「指標(1)」、「指標(2)」・・・と番号を付すこと。
2. 「成果目標」欄のうち左側には、目標達成年度(2021又は2022)を記載すること。また、右側の成果目標値が単年度によるものではなく特殊な場合(例:直近3カ年(2019-2022)の平均値など)には、目標値の後ろに括弧書きでその旨記載すること。
3. 「指標設定年度」欄のうち左側には、当該指標を設定した時点の年度を西暦で記載し、右側には、設定時点における実績を記載すること。また、実績が単年度によるものではなく特殊な場合(例:直近3カ年(2016-2018)の平均値など)には、実績の後ろに括弧書きでその旨記載すること。なお、定性的な指標の場合で、かつ、実績が存在しない場合には、「-」を記載すること。
4. 「2017年度実績」及び「2018年度実績」欄には、当該指標の各年度末時点における実績を記載すること。また、実績が単年度によるものではなく特殊な場合(例:直近3カ年(2015-2017)の平均値など)には、実績の後ろに括弧書きでその旨記載すること。
5. 「指標設定理由」欄には、当該指標を設定した理由について、アウトプットとアウトカムの関係性を含めて簡潔に記載すること。
6. 各指標のうち、「本事業による取組の効果」(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標については、青色を付けること。「本事業による取組の効果が検証可能である」とは、下記の例

のような比較・検証が可能であるものを指す。

(検証可能であると考えられる指標の例)

◆ 科研費採択率

科研費の応募について、URA が関わった場合と関わっていない場合とで、採択率等に差があるかどうかを検証可能である。

◆ 国際共著論文数

国際共同研究の支援について、URA が関わった場合と関わっていない場合とで、国際共著論文数等の成果に差があるかどうかを検証可能である。

◆「中間的なアウトカム(2019年度-2020年度)」欄について

1. 構想(研究力強化の方針・戦略など)を実現するために、2020年度まで(2019年度～2020年度)に達成すべき定量的又は定性的成果目標及び具体的な評価指標(成果目標に対して1つ以上)を記載すること。なお、指標を記載する際には、指標番号として「指標①」、「指標②」…と番号を付すこと。
2. 指標の各欄の記載については、「事業までのアウトカム(2021年度-2022年度)」欄についてを参照すること。

◆「アウトプット」欄について

1. 各年度の取組内容について、事業計画書を基に可能な限り具体的(インプットされているマンパワーが行っている業務がわかるよう)に記載すること。なお、経年変化がわかるよう、前年度の取組を**発展させた繋がりのある取組である場合には、ピンク色を付けるとともに、実施していない・しない取組については、斜線を引くこと。**
2. 各取組が「中間的なアウトカム」や「事業終了までのアウトカム」に、そして「事業終了までのアウトカム」から「将来構想」にどのように繋がっていくのかわかるように、線を記載すること。なお、アウトプットと結ぶものは「中間的なアウトカム」もしくは「事業終了までのアウトカム」とし、必ずしも「中間的なアウトカム」に繋がるものではない。

* 取組やアウトカムが強く影響するもの…黒い実線、副次的・二次的(最初から意図されていたわけではないが、派生によるなど)に影響するもの…灰色の点線で結ぶこと。

* 1つの取組やアウトカムが複数影響すると思われる場合であっても、特に影響を与えるものに絞り、記入は黒い実線及び灰色の点線それぞれ1本ずつとすること。

◆「インプット」欄について

1. 各年度の「アウトプット」で記載した各取組それぞれに係るマンパワー・活動財源について、当該補助金による支出見込分については、「補助金財源」欄に、当該補助金以外の事業や機関経費等からの支出見込分については、「自主財源等」に記載すること。
2. マンパワーについては、具体的な職名とその人数を記載すること。なお、人数については、実人数ではなく延べ人数をカウントすることとし、1名が複数の取組に関わっている場合には、エフォート等で

按分するのではなく、それぞれの取組において 1 名とカウントすること。(よって、マンパワーの合計は、”4.”で記載する雇用者数と必ずしも一致するものではない。)

*「補助金財源」におけるマンパワーについては、当該補助金から人件費支出を行う者が該当(エフォート管理し支出を行う者も含む)する。

*「自主財源等」におけるマンパワーについては、当該補助金以外の事業や機関経費等からの支出を行う者が該当(エフォート管理し支出を行う者も含む)する。なお、エフォート管理し両財源から支出を行う者の人数が把握できるよう、人数の後ろに括弧書きでその数を記載(両財源のエフォート率は考慮しないものとする)すること。また、組織単位での連携・協力の際には、人数ではなくその旨(例:※〇〇室との連携など)を記載すること。

3. 活動財源については、マンパワーに係る人件費を除いた経費(当該補助金においては、「設備備品費」及び「事業実施費」が該当)について記載すること。

*「補助金財源」における活動財源については、”4.”で記載する「設備備品費」と「事業実施費」の合計と一致する。

*「自主財源等」における活動財源については、各取組において 10 万円以上の支出を行う場合に記載すること。

4. 「〇〇年度配分額計」欄には、各年度の「設備備品費」、「人件費」とその雇用者数(実人数)の内訳、「事業実施費」について記載すること。なお、雇用者数については、「URA」と「URA以外」に分けて記載し、「ロードマップ(2)URA等の自主財源化計画」欄における当該補助金の計画値と一致する。

<ロジックツリー(概要版)について>

ロジックツリー(概要版)とは、「将来構想」及び「事業終了までのアウトカム」欄の、下記項目を省いたものとする。

- ・成果目標
- ・指標設定年度
- ・2017 年度実績
- ・2018 年度実績
- ・指標設定理由